

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月7日
岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策や教育活動の改善に役立てるために、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。（本年度は4月19日実施）

1 調査の目的（文部科学省による調査）

- ◇国の義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等（調査問題では①と②を一体的に問うこととする）

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

3 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）

【教科に関する調査】

- 小学校、中学校ともに、国語及び算数・数学の正答率が県・全国平均と同程度となっています
- 理科は、小学校、中学校ともに、正答率が県・全国平均を上回っています。

【質問紙調査】

- 小学校、中学校ともに、基本的な生活習慣（朝食、就寝・起床時刻等）についての質問項目で肯定的回答が多く、生活習慣が安定していることがうかがえます。また、「将来の夢や目標を持っている」という回答も多いことから、基本的な生活習慣の安定が前向きな生活につながっていることもうかがえます。
- 小学校、中学校ともに、「先生はあなたのよいところを認めてくれる」という回答が多く、教師と児童生徒がよい関係性を築く中で、学校生活を送ることができていることがうかがえます。
- 小学校、中学校ともに、「読書が好き」と回答した児童生徒の割合が多い反面、「全く読まない」児童生徒は、小学校で4人に1人、中学校で3人に1人の割合となっています。
- 小学校、中学校ともに、理科の授業についての「予想をもとに観察や実験の計画を立てている」「観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」等の質問項目において、肯定的な回答が多かったことから、科学的事象に興味をもち、日常の理科授業に意欲的に取り組んでいることがうかがえます。
- 小学校、中学校ともに、各教科の問題に対して、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答する児童生徒の割合が高く、また無解答率も低いことから、ねばり強く、前向きに学習に向かう姿勢がうかがえます。
- 特に小学校において「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」という児童が増えており、対話的な学習が進んできていることがうかがえます。
- 特に中学校において「計画を立てて学習している」生徒が増加しています。また、国語、数学、理科の各教科について「勉強が好き」と回答した生徒が多く、前向きに学習に取り組んでいる様子が見られます。

4 分析結果をふまえた今後の取組

学校で	□急激に変化する現代社会においては、身近な問題についての必要な情報を選び、活用し、表現する力が求められています。今後も、岡谷スタンダードカリキュラムの実践による探究的な学習や協働的な学びを充実させ、<u>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進めてまいります。</u> □<u>学習用端末等、ICT 機器を活用した授業についての研修を進め、授業改善に生かしてまいります。</u>
家庭で	□<u>読み聞かせや、親子で読書する時間を設けるなど、様々な本に親しむ機会を意識的につくみましょう。</u> □家庭学習については、中学校において改善の傾向が見られますが、授業と結びつけた内容（予習・復習）や、疑問や課題を解決したり自分の興味関心を伸ばしたりする自主学習などに、<u>自分で計画を立てて取り組めるようにすることが大切</u>です。より一層充実した家庭学習となるよう応援をお願いします。